



みずのさと かながわ「子ども親水啓発事業」

いのちの水 生きている川

～みんなの手で、かながわの水を守り、育て、つなげよう～

このリーフレットでは、県内各地の小・中学校における川や池、水を題材にした学習の実践例を紹介しています。川や池には多くの生き物が生活し、それらは私たちの生活を豊かにするとともに、潤いを与えてくれています。学校や地域での自然の観察や生き物の飼育などを通して、生き物の誕生や成長、生命の大切さについて学んでいきましょう。

また、自然の仕組みの素晴らしさを知るとともに、私たちのいのちの源である、水について調べたり、限りある水資源を大切に守っていくことについて考えたりしていきましょう。

「わたしたちの中堀川！」

社会科のまち探険の学習の中で、子どもたちは大池ランドにある「中堀川」に出会いました。そこには、不思議な石像がありました。夏休み後には、中原街道をはさんだ「中堀川プロムナード」で遊ぶ中で、地域の方たちが「ホテル」を呼び寄せようとしていることも知りました。中堀川に興味をもった子どもたちは、「総合」の学習で、更にいろいろなことを調べてみることにしました。大池のへびの伝説、源流探し。小冊子で調べたことを、地域の方に分



不思議な石像



生き物探し



中堀川プロムナード

かりやすく伝えるために、自分たちの言葉に直して、紙芝居にするなど子どもたちの成長も見られました。今後はホテルがすすめる川にする活動に取り組んでいきたいと考えています。**(横浜市立四季の森小学校)**

水はどこから～社会科見学、水道教室を通して～

社会科見学で訪れた宮ヶ瀬ダムでは、観光放流で大量の水が流れてくる光景や、水しぶきが飛んでくる様子に、児童は感動していました。また、寒川浄水場では、川の水がきれいになる様子を職員の方に丁寧に説明していただきました。水道教室では、鎌倉水道営業所の方に出前授業に来ていただき、家庭や学校にきれいな飲み水が届くまでにいろいろな人たちが関わっていることを知りました。水道水とミネラルウォーターの飲み比べでは、おいしさにはあまり差がないことを知り、安全でおいしい水道水が届けられていることに感謝の気持ちをもちました。まとめとして、個人新聞を作り、大切な水資源を守っていくために、自分たちが普段の生活の中でできることを考えて意見を書きました。**(鎌倉市立稲村ヶ崎小学校)**



水道教室の出前授業



宮ヶ瀬ダムの放流

まいおかがわ 舞岡川のハグロトンボ

舞岡中学校科学部では、学校の正門前を流れる舞岡川の生物や水質についての研究を2012年より行っています。毎週1回水質調査を行い、水質と生物との関係について考察をしています。舞岡川周辺で見られるハグロトンボは、以前ほどの河川でも見られるトンボの一種でしたが、河川の水質悪化などのため、横浜市内ではほとんど見られなくなっていました。しかし、下水道や下水処理施設の整備などにより水質が向上し、1995年に金沢区の侍従川で発見され、舞岡川でも近年多く確認できるようになってきました。舞岡中学校では毎年5月中旬より7月下旬にかけて全校生徒に協力してもらい、登下校中にハグロトンボを見つけたら学区の地図に赤いシールを貼る生息数調査を行っています。この調査は、大まかな生息数や生息範囲を知ることができ、科学部の貴重なデータとなっています。科学部ではこの他に、ハグロトンボの個体の追跡調査や縄張り行動の調査、ヤゴや成虫の飼育に向けての研究など行っています。年により生息数や生息範囲などが変化しますが、このことと、水質や気温、湿度、植物や他の生物との関係について今後も調査していきたいと考えています。



ハグロトンボ



生物の調査

よこはましりつまいおかちゅうがっこう
(横浜市立舞岡中学校)

生まれ変わる「友情の池」

昭和50年代に「田んぼ」として整備され、その後「友情の池」と命名された池は、残念ながら平成の時代には、あまり子どもたちが親しみをもてる場所ではありませんでした。

令和元年度、国土緑化推進機構・かながわトラストみどり財団による助成事業を活用し、大々的に整備事業を進めました。PTAおやじの会や地域のボランティアの方々の協力で、池が左の写真から右の写真のように生まれ変わりました。湧水頼りだった水源を確保して「流れ」を作り、地元二宮の土と石、植物を使って二宮らしさを再現しています。観察台を設置し、しゃがんだり寝転がったりして、水の中もじっくり観察できるようにしました。まだ整備の途中ですが、子どもたちは池に枝葉が落ちていると、冷たい水に素手を突っ込んで拾っています。観察台にしゃがみ込んでじっと池の様子を眺めていた子どもたちは「〇〇を育てたい」「土の所には何を植えるの?」と興味津々です。今後は、友情の池に人が集まり、学校と保護者、地域が一体となって、水、自然、いのちを大切にすることが育まれ、人のつながりが生まれることを願っています。

にのみやちゅうりついつしきしょうがっこう
(二宮町立一色小学校)



整備前の友情の池



枝葉で埋まる池



きれいになった友情の池



池を観察する子どもたち

もりとがわ 森戸川での観察 ～葉山の自然に親しもう～

5年生の単元「流れる水のはたらき」で、本校の学区を流れる森戸川の中流・上流へ行き、川の様子を観察しました。子どもたちは川の流れの速さ、川幅、堆積の様子など、事前に学んだことが確認できたこと以外にも、水が澄んでいること、魚や鳥など多くの生き物が生活していることなど、たくさんのことに気づき、喜びを感じていました。全国的に台風の被害が多く出た時期と重なったので、森戸川を囲む森林は、雨水がゆっくりと流れるように調整したり、洪水やがけ崩れが起こったりすることを防ぐ、大きな役割を果たしている「緑のダム」であることも同時に実感することができました。

この活動を通して、子どもたちが流れる水の働きを学ぶとともに、地域を流れる川（森戸川）に親しみながら、自然を大切にすることへ繋げていきたいと考えています。葉山には、身近に豊かな自然が多く残されているので、子どもたちがこの自然との出あいをきっかけに、自然への理解を深め、自然を保全し大切にしていける心が育まれることを期待しています。



サワガニ



森戸川

（葉山町立長柄小学校）

ニホンアカガエルを育ててみよう

日本の固有種であるニホンアカガエルの卵から孵化したオタマジャクシを育て、その成長の過程を観察するとともに、成長したオタマジャクシを学区の川に放流する活動を通して、地域の生き物、環境について学びました。2月に京急油壺マリンパークよりニホンアカガエルの卵を譲り受けてから、4月には孵化したオタマジャクシの観察を行い、5月にオタマジャクシを放流しました。さらに、6月まで観察を継続し、成体になったものを放流しました。

実践の成果としては、ニホンアカガエルの飼育を通して、日本の固有種に対する意識が高まり、卵から観察を継続することで、卵から成体へと成長する様子を理解することができました。また、地域に生息していたというニホンアカガエルを知り、地域の生き物についての理解を深めることができました。さらに、整備された川には生き物が生息しにくいことを知り、土がたまった部分（島）に新たな生態系が生まれることを期待して放流することができました。ニホンアカガエルの飼育、放流活動を通して、命と向き合う気持ちが育まれ、地域の自然に対する人間の影響について考えることができました。

実践をするにあたり、理科の生き物の観察と連携して、科学的なものの見方として色・形・大きさを視点とした観察活動を実施しました。また、京急油壺マリンパークと連携することで、地域にある教育力を活用した実践になりました。

実践を通して、ニホンアカガエルの成体を飼育することが難しいため、継続的に飼育することが今後の課題だとわかりました。そこで、学校にある池にも放流し、来年春に卵を産み、育つことを望み、新たな生育環境となることを期待しています。



放流の様子

みうらしりつはっせしょうがっこう
（三浦市立初声小学校）

生活科 「まちが大すき たんけんたい」

逗子海岸河口から中原橋まで田越川に沿って歩きながら町探検を行いました。田越川にはどんな生き物がいるのか観察し、防災意識をもたせるために海拔や河口からの距離も確認しながら歩きました。町探検で知ったことや不思議なことをポスター、地図、紙芝居などにしてお家の方に向けて発表しました。

町探検では、川の水草の掃除をしている場面にも出会い、川の環境整備をしてくださる人がいることを知ることができました。また、橋のデザインや川に流れてくる排水についても疑問をもつ児童が多くいました。探検後には、毎日、川でどんな生き物を見つけたのかを報告する児童が増え、生き物や川についての疑問（鯉の種類が河口の方と違うのは？ 外来の生き物がなぜいる？ など）を多くもつことができました。もっと知りたいことについて、逗子環境会議のまちなみと緑の創造部会、都市整備課都市整備係の方をゲストティーチャーとして招いて教えていただきました。川・海のすばらしさ、地域の良さに気付くことができ、川や海を大切にしている人達が地域にいることを知ることができました。その人達とつながっていくことで、児童にも川や海を大切にしていこうという意識をもたせことができました。

(逗子市立逗子小学校)



探検の様子



発表ポスター

目久尻川をきれいにしよう

杉本小学校では、4年生が総合的な学習の時間に目久尻川の調べ学習に取り組みました。すぐそばに川が存在するにもかかわらず、目久尻川について知らないことがたくさんあることに気付いた子どもたち。川の名の由来や川に生息する生き物、昔の川の様子など調べてみて初めて知ることがたくさんありました。

9月には「目久尻川をきれいにする会」の方々と本校保護者の協力のもと、目久尻川の清掃活動に取り組みました。ごみ拾いをしながら、たくさんの生き物が生息していることを実感することができました。「鮎がたくさんいた。」「手長エビがいた。」「もっともっときれいにしたい。」など、この活動を通して、自分たちの地域を流れる目久尻川を大切にしたいという思いが高まりました。この体験を生かして、これから、地域の一員として自分たちに何が実践できるかを考えていきたいです。

(海老名市立杉本小学校)



目久尻川清掃の様子



「目久尻川をきれいにする会」の方の話